

不信心者の初詣

吉田 眞人

不信心者ではあるが初詣には毎年行く。年が変り改まった気分になるという効能がある。何かを念じたり、お願いするわけではない。

ここ50年の間に複数回行った神社・仏閣は次の通りである。

▽春日神社（杉並区）奈良の春日神社から分祀した旧大宮前新田の鎮守。50年前の新婚時代に住んだ社宅の斜め前にあった。社宅は井の頭通りと五日市通りが一番接近したところにあり、一日中車の音がやかましいが、格安の家賃だったので致し方なし。大晦日の日付が変わる頃には、初詣客が200人ほどの行列を作っていた。

数年前に訪ねてみたが、社務所も、従って神官や巫女も、近隣の神社からの兼務になっっていて、境内もかなり荒れ果てた感じ、「今は昔」という感じであった。

▽建長寺（鎌倉市）臨済宗建長寺派の総本山。我が家の墓のある桐生市の寺は、この末寺。その縁で何回も参詣している。初詣らしき装飾が殆どない事が禅寺らしくて良い。北鎌倉駅からやや遠いのが欠点で、だんだん足が遠のいている。

▽総持寺（鶴見区）禅宗つながり（ここは曹洞宗）で、且つ我が家からバス一本と交通至便なので、最近の初詣は専らここに行っている。耐震補強工事のため佛殿がここ数年使えなかったが、工事が終了し今年から参詣可能になった。工事前は焼香台が準備され、各々が焼香をするという形式であった。まことに残念な事に、今年は焼香台無しで普通に拜むだけ、他の神社仏閣との差が無くなってしまった。

来年は何処に行こうか。

育った家には神棚があったが、正月に榊を供える程度で、普段はたいしたケアはしていなかった。現在の家には神棚も仏壇もない。今の世の中神棚のある家はどれくらいあるのだろうか。

典型的な不信心者として、次の和歌とフレーズが好きだ。

「神といい仏というも世の中の人心のほかのものは」

実朝

また

「預言者は、彼の故郷以外では、敬われないことはなかった」 マタイによる福音書
すっきり預言者の故郷の人になったようである。

（2025年1月16日）